

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第4部門第1区分
【発行日】平成17年12月15日(2005.12.15)

【公開番号】特開2002-309856(P2002-309856A)
【公開日】平成14年10月23日(2002.10.23)
【出願番号】特願2002-64872(P2002-64872)
【国際特許分類第7版】
E 0 6 B 1/32
E 0 6 B 1/34
【F I】
E 0 6 B 1/32
E 0 6 B 1/34

【手続補正書】
【提出日】平成17年11月1日(2005.11.1)
【手続補正1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項1】

金属枠の室内側に樹脂枠を配設した複合窓枠を横方向に連設する複合窓枠の連結構造であって、

横方向に連設する二つの窓枠の縦枠間に金属製の方立を介在させて各窓枠を連結させ、少なくとも一方の窓枠は押縁部材を介してガラス体を固定する嵌め殺し窓枠であり、上記方立は室内側端部から見付方向両側に延びる連結片を有し、各縦枠の金属部と方立とを係合及び又はネジ止めにより固定すると共に、各縦枠の金属部と方立とを別の位置で近接または接触させてなり、上記縦枠の室内側に配設される各縦樹脂枠には、上記縦枠の金属部の連結片より室外側を覆いガラス体または障子と連係する枠としての機能を有する枠構成部と、該枠構成部と一体であって上記縦枠の金属部の連結片より室内側の端部を室内側に延出させた室内側樹脂片とを、それぞれ設け、上記嵌め殺し窓枠を構成する縦樹脂枠の枠構成部には上記押縁部材を取付け、

上記方立の室内側面には樹脂製のカバー体を取付けると共に、このカバー体の左右両側端部を上記室内側樹脂片に連係させることにより、

カバー体を上記縦樹脂枠の各室内側樹脂片の間に納めて室内側面のみを室内側に露出させ、かつカバー体の室内側面と上記各縦樹脂枠の枠構成部と一体に設けられた室内側樹脂片とを連続状としてなることを特徴とする複合窓枠の連結構造。

【請求項2】

金属枠の室内側に樹脂枠を配設した複合窓枠を横方向に連設する複合窓枠の連結構造であって、

横方向に連設する二つの窓枠の縦枠間に金属製の方立を介在させて各窓枠を連結させ、少なくとも一方の窓枠は押縁部材を介してガラス体を固定する嵌め殺し窓枠であり、上記方立は室内側端部から見付方向両側に延びる連結片を有し、上記方立の室内側面には樹脂製のカバー体が取付けられると共に、上記縦枠の室内側に配設される各縦樹脂枠には、上記縦枠の金属部の連結片より室外側を覆いガラス体または障子と連係する枠としての機能を有する枠構成部と、該枠構成部と一体であって上記縦枠の金属部の連結片より室内側の端部を室内側に延出させた室内側樹脂片とを、それぞれ設け、上記嵌め殺し窓枠を構成する縦樹脂枠の枠構成部には上記押縁部材を取付け、

上記各縦枠の金属部と方立とを係合し及び又はネジ止めにより固定すると共に、各縦枠の金属部と方立とを別の位置で近接または接触させ、上記カバー体の左右両側端部を上記室内側樹脂片に連係させることにより、

カバー体を上記縦樹脂枠の各室内側樹脂片の間に納めて室内側面のみを室内側に露出させ、かつ上記各縦樹脂枠の枠構成部と一体に設けられた室内側樹脂片と上記カバー体の室内側面とを連続状としてなることを特徴とする複合窓枠の連結構造。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

【課題を解決する手段】

このような複合窓枠の連結構造における問題点を解決するために本発明は、金属枠の室内側に樹脂枠を配設した複合窓枠を横方向に連設する複合窓枠の連結構造であって、

横方向に連設する二つの窓枠の縦枠間に金属製の方立を介在させて各窓枠を連結させ、少なくとも一方の窓枠は押縁部材を介してガラス体を固定する嵌め殺し窓枠であり、上記方立は室内側端部から見付方向両側に延びる連結片を有し、各縦枠の金属部と方立とを係合及び又はネジ止めにより固定すると共に、各縦枠の金属部と方立とを別の位置で近接または接触させてなり、上記縦枠の室内側に配設される各縦樹脂枠には、上記縦枠の金属部の連結片より室外側を覆いガラス体または障子と連係する枠としての機能を有する枠構成部と、該枠構成部と一体であって上記縦枠の金属部の連結片より室内側の端部を室内側に延出させた室内側樹脂片とを、それぞれ設け、上記嵌め殺し窓枠を構成する縦樹脂枠の枠構成部には上記押縁部材を取付け、

上記方立の室内側面には樹脂製のカバー体を取付けると共に、このカバー体の左右両側端部を上記室内側樹脂片に連係させることにより、

カバー体を上記縦樹脂枠の各室内側樹脂片の間に納めて室内側面のみを室内側に露出させ、かつカバー体の室内側面と上記各縦樹脂枠の枠構成部と一体に設けられた室内側樹脂片とを連続状としてなることを特徴として構成されている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

また、請求項2に記載の本発明は、金属枠の室内側に樹脂枠を配設した複合窓枠を横方向に連設する複合窓枠の連結構造であって、

横方向に連設する二つの窓枠の縦枠間に金属製の方立を介在させて各窓枠を連結させ、少なくとも一方の窓枠は押縁部材を介してガラス体を固定する嵌め殺し窓枠であり、上記方立は室内側端部から見付方向両側に延びる連結片を有し、上記方立の室内側面には樹脂製のカバー体が取付けられると共に、上記縦枠の室内側に配設される各縦樹脂枠には、上記縦枠の金属部の連結片より室外側を覆いガラス体または障子と連係する枠としての機能を有する枠構成部と、該枠構成部と一体であって上記縦枠の金属部の連結片より室内側の端部を室内側に延出させた室内側樹脂片とを、それぞれ設け、上記嵌め殺し窓枠を構成する縦樹脂枠の枠構成部には上記押縁部材を取付け、

上記各縦枠の金属部と方立とを係合し及び又はネジ止めにより固定すると共に、各縦枠の金属部と方立とを別の位置で近接または接触させ、上記カバー体の左右両側端部を上記室内側樹脂片に連係させることにより、

カバー体を上記縦樹脂枠の各室内側樹脂片の間に納めて室内側面のみを室内側に露出させ、かつ上記各縦樹脂枠の枠構成部と一体に設けられた室内側樹脂片と上記カバー体の室

内側面とを連続状としてなることを特徴として構成されている。